

関東六華会散策の会「忠臣蔵歴史を訪ねて（後編）」のご報告

関東六華会、平成28年度行事として「忠臣蔵歴史を訪ねて（後編）」が、1月28日（土）に開催されました。

参加者は12名、9時半に本所松坂町公園（吉良邸跡）に集合し、討ち入りを終えて赤穂浪士が目指した泉岳寺に向けてスタートしました。

前回（前編）同様、実行委員の櫻井さんが作成してくれたガイド用資料に基づいて、同実行委員小野寺さん・佐々木との3名で、1月14日（土）に同じコースを下見しました。

その日はこの冬一番の寒波のため、途中粉雪に見舞われる等大変つらい思いをしましたが、本番当日は穏やかに晴れ、気温も適度に上がって散策は最高の天気となりました。

今回もガイドは櫻井さん、事前配布の資料から各見学場所での説明、質疑応答まで行って頂き、小野寺さんは全体のコーディネーター、佐々木が補佐する形で開催しました。

吉良邸の向かいで名前を変えて米屋を営み、討ち入りに備えて内部の様子をうかがった前原伊助邸、大石主税が率いて討ち入った吉良邸裏門跡を見てから、浪士休息の地である両国橋へ。続いてタクシーで深川江戸資料館へ、入り口で北海道の大横綱・大鵬（顕彰コーナ）が迎えてくれて館内に、浪士達が引き揚げる時に通った佐賀町の街並みを見学。

都バスで富岡八幡宮へ移動、門前の茶屋に47士が集まって討ち入りの詳細を取り決めた（深



吉良邸跡にて 上段：石堂、小野寺、南部、馬淵、中山、坂本、伊藤、櫻井
下段：篠原、金本、吉田、佐々木 (敬称略)



両国橋東詰（赤穂浪士休息の地）にて



深川江戸資料館（浪士達が通った佐賀町の街並）

川会議）ところですが、八幡宮には江戸勲進相撲発祥地、日本一大きい豪華神輿、伊能忠敬銅像など見ものも多くありました。横綱碑では人間離れた大きさの手型と足型



富岡八幡宮にて

に驚きました。

浪士達が渡った永代橋のたもとにある「赤穂義士休息の地」、「ちくま味噌」店の主人が浪士達を招き入れて甘酒を振舞ったとのこと。

下見の日は、浪士達が飲んだであろう甘酒を購入出来ましたが、当日は残念ながら閉店しており買えませんでした。



2017/01/28

次に浅野内匠頭邸跡を見て築地本願寺へ。(47士の内唯1人、関新六が本願寺に葬られています)

待望の昼食は築地場外市場で、まぐろ尽くし丼は美味しかったが、美味しく呑んだビールのおかげで後半の歩きが大変疲れることになりました。(深く反省)



高輪大木戸跡

仙台藩屋敷跡、高輪大木戸跡を経て浪士達の目的地である高輪泉岳寺へ。



浪士達はその後、細川家17人・松平家10人・水野家9人・毛利家10人と別れて預かりとなり、2月4日に切腹することになりました。

浅野内匠頭と奥方(揺泉院)の墓、47義士の墓、討ち入りに加わりたかったものの父親の許しが得られずに自刃した萱野三平の墓(48番目の義士)も、皆でお線香をあげて来ました。



線香の煙が絶えない義士墓

大石良雄・他16士が切腹した細川越中守屋敷跡、今回の散策では『・・・跡』等の看板や石碑のみというのが多かったのですが、ここは切腹した庭がそのまま残っている場所でした。浪士達を罪人のように扱う大名家もある中で、細川家は特に篤く遇したようで、17士の切腹地を神が宿る神聖な場所として残したそうです。

赤坂氷川神社(揺線院の実家)と近くにある勝海舟宅跡を見学して虎の門に移動し、有志10人で懇親会を開催。



「大石良雄外一六士忠烈の跡」と残された神聖な庭

今回の感想などをお聞きしたかったが、カーテンで仕切られた隣の若者グループの声が丸聞こえなので、残念ながら断念しました。

途中何方かが仰っていましたが、『みんなと一緒に歩けるんであって、個人で来たならすぐ止めて帰っちゃうな』との言葉に同感しました。

散策の会として29年度行事がこれから計画されると思いますが、元気で楽しく大勢で実行したいものです。



氷川神社近くの「勝安房邸跡」にあった「海舟・龍馬の子弟像」

記： 佐々木 明